

都市計画道路弥富相生山線について

路線名	事業区間	延長	幅員
弥富相生山線	天白区菅田三丁目 ～天白町大字野並	8 9 2 m	1 2 ～ 1 6 m

(1) 整備目的

都市計画道路弥富相生山線は、名古屋都市計画の幹線街路として、都市の骨格を形成する道路であり、都市内におけるまとまった交通を受け持つとともに、円滑な交通処理と良好な市街地環境の形成、さらには災害時の防災性の向上を図ります

(2) 本体事業費

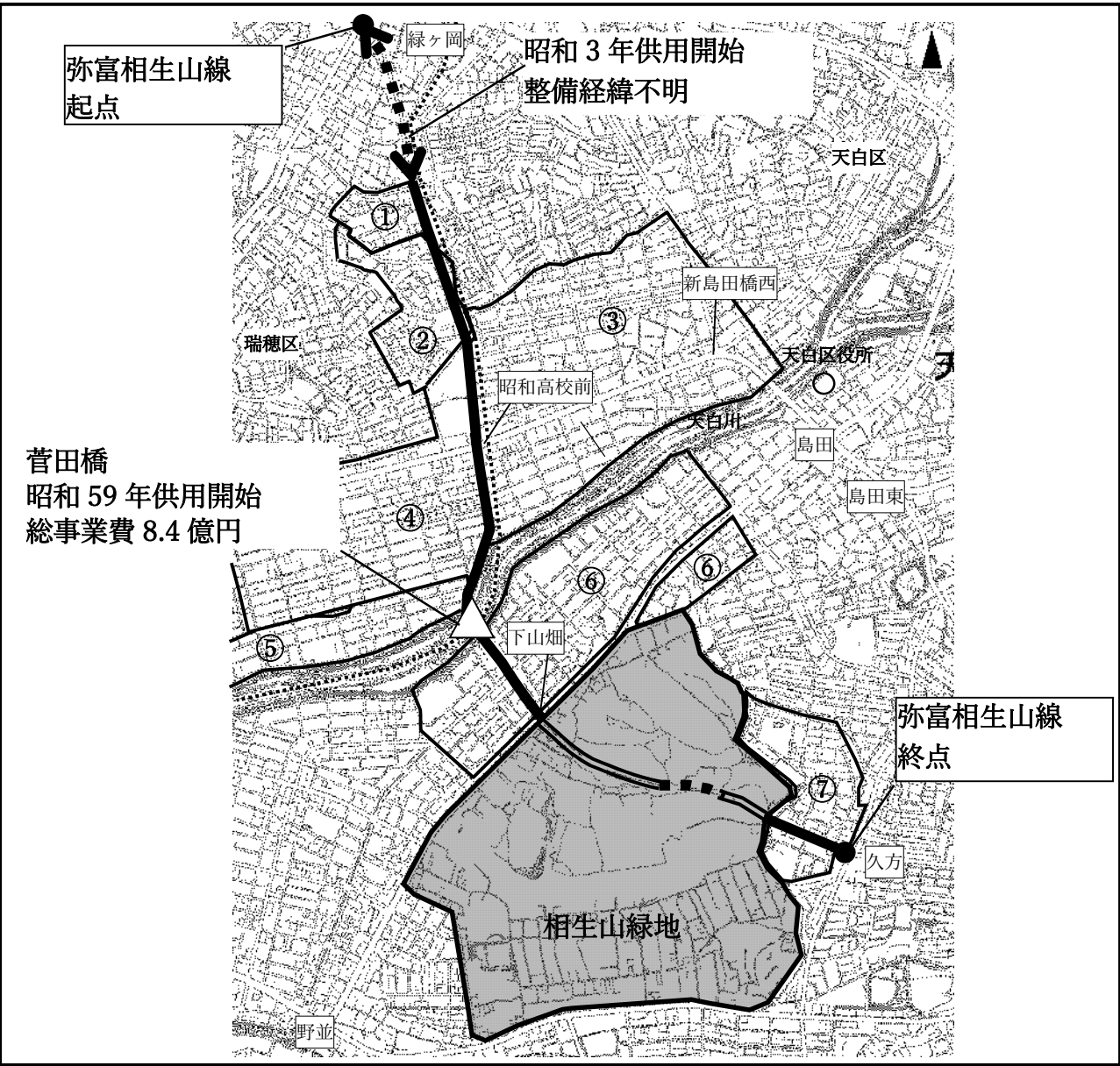
全体事業費 約 3 6 億円
執行済額 約 2 9 億円

平成 2 6 年度末進捗率 約 8 0 %

(3) 位置図

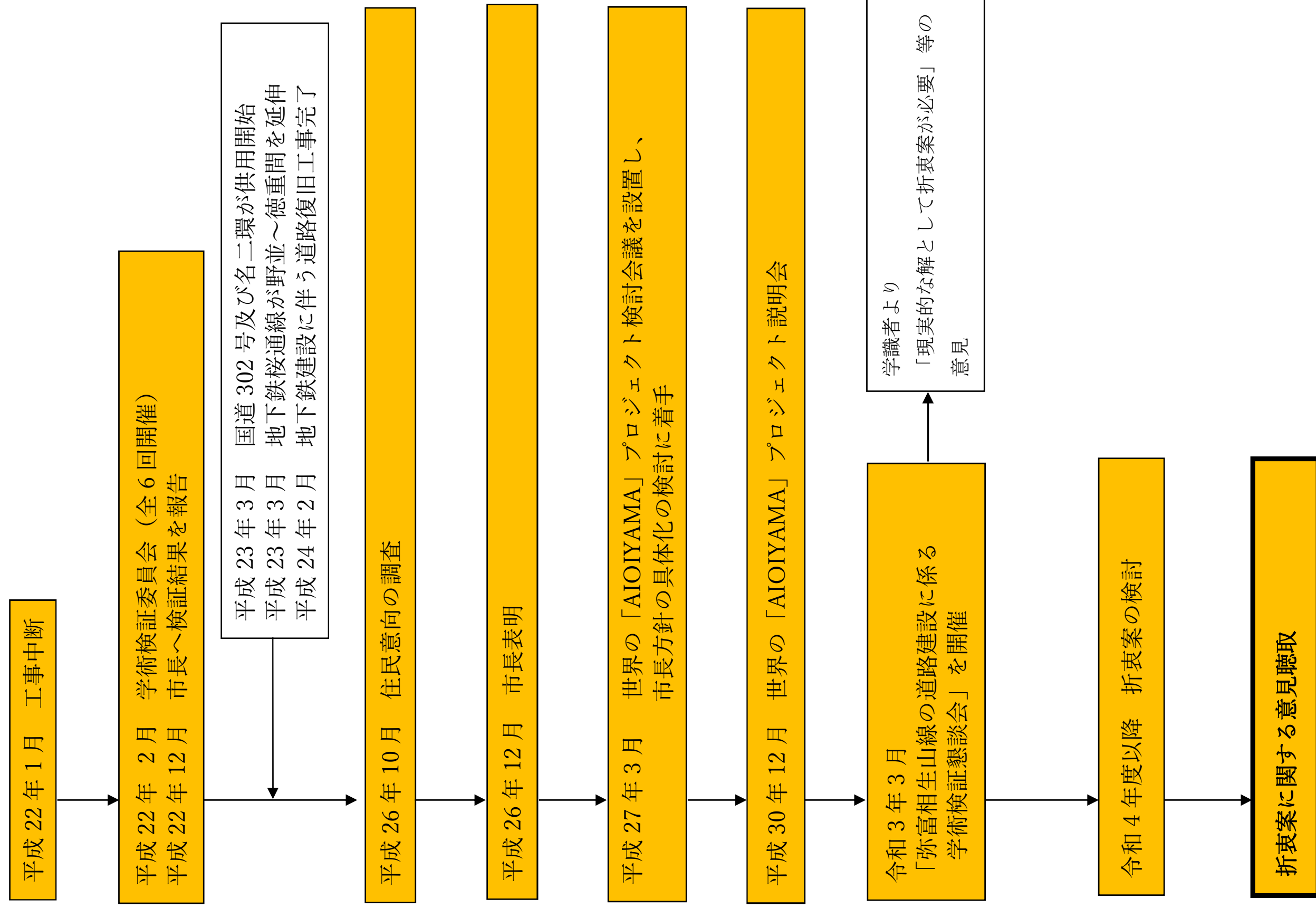


(4) 整備経緯



番号	組 合 名	事 業 期 間	総事業費 (億円)
①	八 事 南 部 一 区	昭和17年 5月 2日～昭和35年 4月 1日	—
②	八 事 南 部	昭和35年 3月30日～昭和44年11月22日	0.8
③	下 八 事	昭和36年 4月22日～昭和47年 9月 8日	3.1
④	中 根	昭和15年 3月 4日～昭和35年 4月 1日	—
⑤	中 根 南 部	昭和39年10月 1日～昭和46年12月25日	3.9
⑥	菅 田	昭和53年 3月24日～平成 2年 3月29日	73.2
⑦	菅 田 南 部	昭和45年12月24日～昭和60年 3月30日	11.0

弥富相生山線の経緯



ヴィジョン



ヴィジョン	すいすい便利なあいおいやまのみち		自然環境と人の暮らしが 共生する相生山のみち			自然ゆたかな ナゴヤの森のみち	
	誰もが自由に快適に移動できる通行環境を整備する事で 周辺の地域交通の利便性が向上します		災害時の緊急車両の通行やユニバーサルデザインの導入、 自然とのふれあいにより、地域の暮らしと自然が折り合います			自然体験や、コミュニケーションの場に活用することで 市民のオアシスを提供します	
	幹線道路ネットワークの形成	地域の交通安全の確保	地域の暮らしを支える 通行環境	災害時・緊急時の 安全性向上	地域の暮らしに彩や豊かさを 与える	自然体験機会の創出	現状の環境を維持
有すべき 機能	<u>発生交通の分散</u> 経路選択の自由度向上 移動時間・距離の短縮	<u>入り込み交通の抑制</u> 通学路 自転車、歩行者と 一般車の分離	<u>人とまちのつながり</u> 休憩施設 確かな歩車分離	<u>緊急車両の通行</u> 避難経路の選択肢 広域避難地(場所)への アクセス 緑地内の災害対応	<u>コミュニケーションの場</u> カフェ、動物ふれあい キッチンカー 緑日	<u>アクセス園路</u> 空間利用 緑地利用者の起点 緑地管理	<u>緑地管理</u>
	一般車、すべての車両 (普通車、緊急車、公共交通など) 歩行者 自転車	一般車の内、利用別に制限 (普通車、緊急車、公共交通) 歩行者、自転車	公共交通、緊急車両 (デマンドタクシー・デマンドバスなど) 歩行者、自転車、グリーンモビリティ (車いす、シニアカー)	緊急車両 (救急車、消防車、大型トラック) 歩行者 (車いす、シニアカー)	歩行者、自転車 (車いす、シニアカー) 4 tトラック程度 (キッチンカー)	歩行者、自転車 (車いす、シニアカー) 4 tトラック程度 (緑地管理車)	4 tトラック程度 (緑地管理車)
運用方法 (選択肢)	常時利用(自歩行、一般車)	常時利用(自歩行) 時間規制(一般車、自歩行) 方向規制(一般車) 時期規制(一般車)	常時利用	災害・緊急時(車両) 避難者(歩行)	常時利用(自歩行) 緑日(キッチンカー)	常時利用(自歩行) 管理(緑地管理車)	管理(緑地管理車)
環境影響	継続的なモニタリング調査（環境、利用状況など）の実施						
検討の視点			地域特性（折衷案として早期に市民、地域に還元する必要性） ・過去より、地域からの緊急車両（救急車、消防車など）の通行要望 ・急激な豪雨の頻発、最大浸水被害想定拡大など災害時の避難路要望、広域避難場所への大型車通行 ・大規模な集合住宅を有し住宅地としての色合いが濃く子育て世帯も多い人の流れの多いエリア ・天白区の中で、高齢者の割合が高く移動手段の多様化、バリアフリーの確保も重要 ・生活道路への車両流入が続いており、児童、高齢者などへの交通安全の確保が生活環境改善の課題 ・平成29年度市政アンケートより、緑地利用について多様な要望がある （散歩、森林浴、自然観察、自然を利用した遊びなど）				
			つなぐ		まもる		
					ふれあう		

将来ビジョン
(自然環境と人の暮らしが共生する相生山のみち)

つなぐ

地域とのつながり (通学路として利用 買い物など暮らしをつなぐ)

まもる

安心・安全 (緊急車両の通行 災害時の避難路)

ふれあう

人と自然とのふれあい (コミュニケーションの場 市民のオアシス)

3つの折衷案

現地の高さになるべく合わせてつなぐ案



案の概要

- ・ 地形改変が大きい
- ・ 林の連続性が途切れ、沢、日照、風、景観へ影響が生じる
- ・ 勾配が比較的大きいが、緊急車両の通行、利用者へのユニバーサルデザインに対応できる
- ・ ヒメボタルへの影響が懸念される
- ・ 自然とのふれあいを最も感じられる

緑の山をなるべく残してつなぐ案



- ・ 一時的な地形改変が大きい
- ・ 林の連続性が部分的に途切れ、沢、日照、風、景観へ影響が生じる
- ・ 植物の連続性が確保できる
- ・ 緊急車両の通行、利用者へのユニバーサルデザインに対応できる
- ・ ヒメボタルへの影響が懸念される
- ・ 自然とのふれあいを感じられる

現地の地形をいっさい触らずつなぐ案



- ・ 地形改変が少ない
- ・ 日照、風、景観へ影響が生じる
- ・ 動植物や沢筋の連続性が確保できる
- ・ 緊急車両の通行、利用者へのユニバーサルデザインに対応できる
- ・ ヒメボタルへの影響が少ない
- ・ 新たな自然とのふれあいの場が創出される

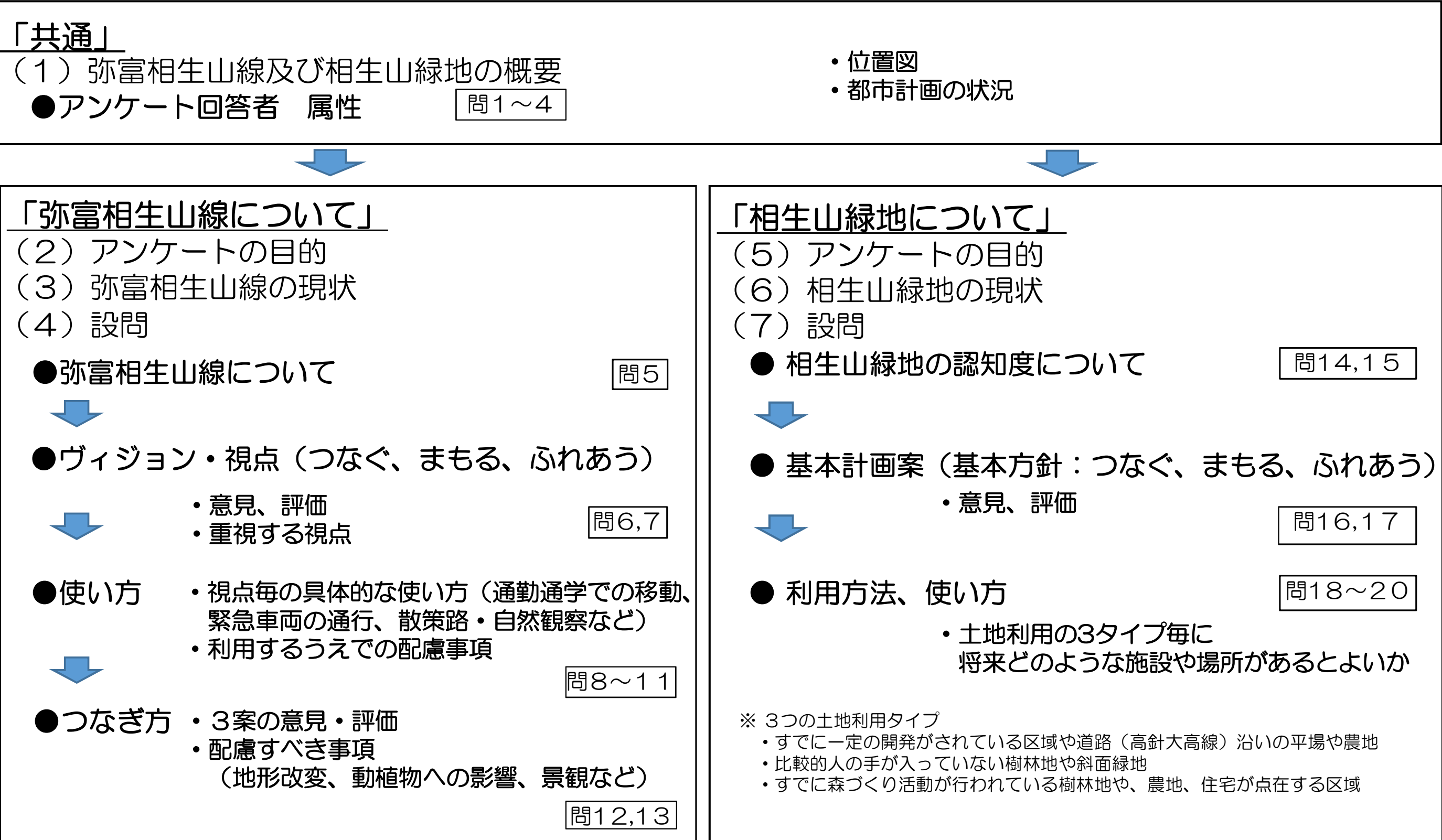
1. アンケート調査概要

●調査方法

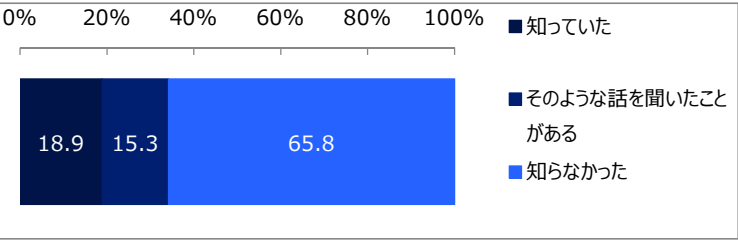
モニター調査（Web調査）
市内の登録モニター数約5万人のアンケートサイトにおける調査

●対象者

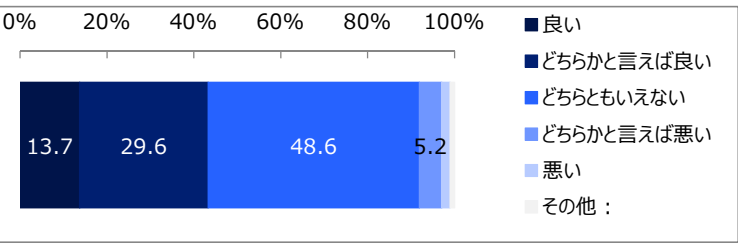
①天白区・瑞穂区・緑区 400件程度 回収
②名古屋市（①以外13区）400件程度 回収
10代～80代の各年齢層の方から均等に調査を実施
※10代、80代のモニター数が不足する場合は、近い年齢層の回収数を追加し補足
2. アンケート調査内容



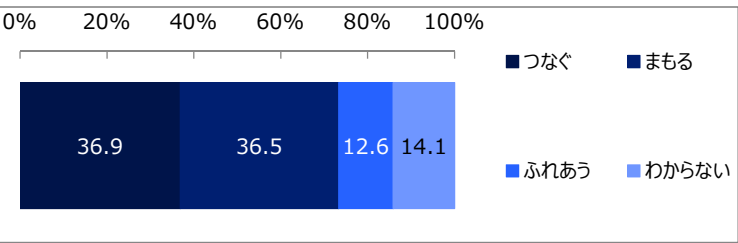
Q5.あなたは、当該区間に整備途中で中断した道路の計画があることを知っていましたか。



Q6.当該区間におけるヴィジョンについてどのように思われますか。

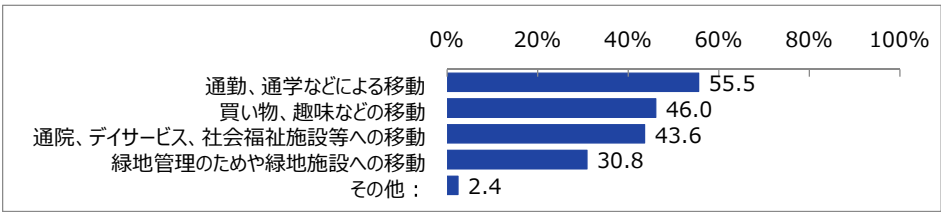


Q7.3つの視点「つなぐ」「まもる」「ふれあう」のうち、最も重要と思われるものは何ですか。

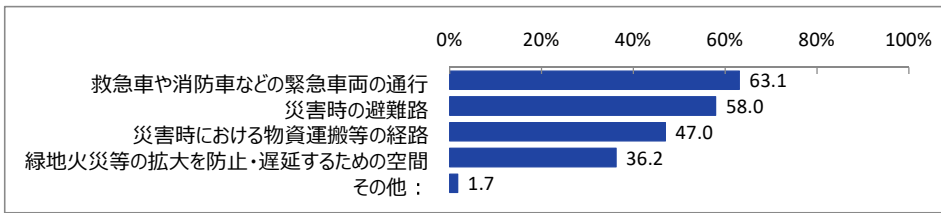


弥富相生山線に係る折衷案及び相生山緑地の基本計画に関する市民意識調査

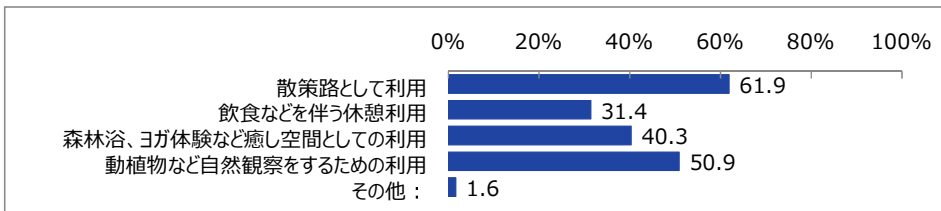
Q8.ヴィジョンにおける「つなぐ」について、重要と思われる使い方はどれだと思いますか。（いくつでも）



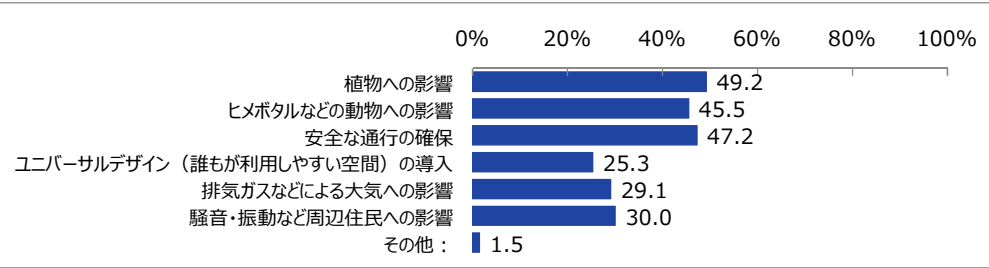
Q9.ヴィジョンにおける「まもる」について、重要と思われる使い方はどれだと思いますか。（いくつでも）



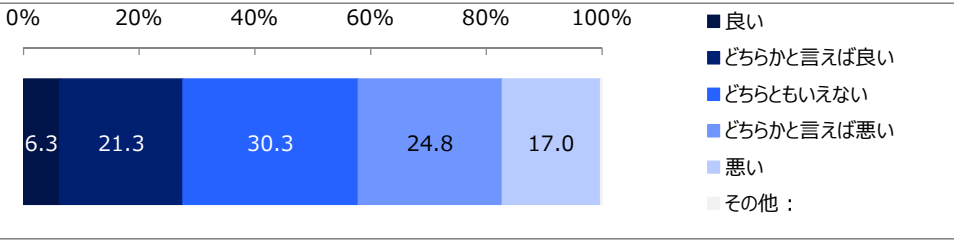
Q10.ヴィジョンにおける「ふれあう」について、重要と思われる使い方はどれだと思いますか。（いくつでも）



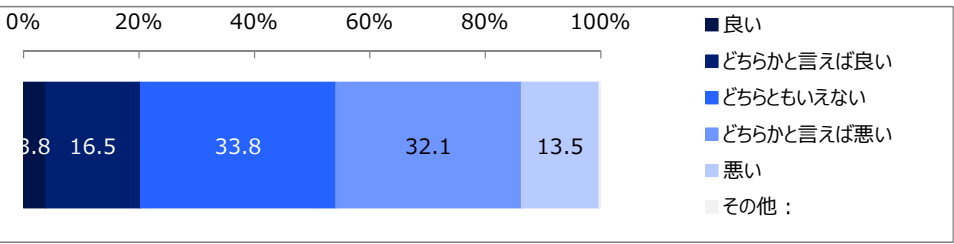
Q11.当該区間における施設を利用するときにはどのようなことに配慮が必要だと思いますか。（3つまで）



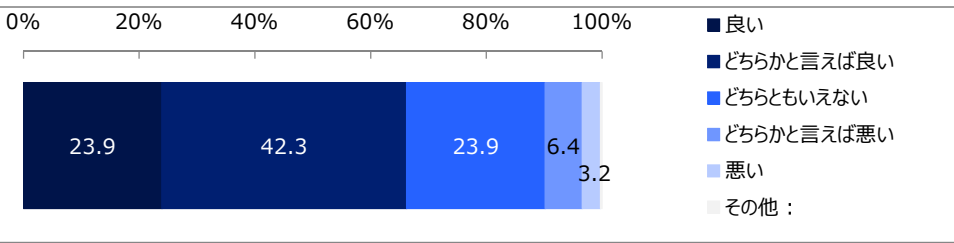
Q12-1.第1案の印象をお聞かせください。



Q12-2.第2案の印象をお聞かせください。



Q12-3.第3案の印象をお聞かせください。



Q13.未整備区間をつなぐとき、どのようなことに配慮が必要だと思いますか。（3つまで）

